

地域課題解決に向けての 意見交換会報告書

—品川区議会と品川女子学院生徒—



令和元年11月21日（木）品川女子学院

議会報告会等準備会議

【開催経緯】

品川区議会では、「区民に開かれた議会」「区民に身近な議会」を目指す議会改革の一環として平成28年度より「地域課題解決に向けて」をテーマとし、年1回、品川区議会と品川女子学院の意見交換会を開催しています。

4回目となる今回も、生徒が調査した地域の諸課題のテーマや内容を事前に把握するため、文化祭に参加するなど準備を重ね、11月21日に各クラスの生徒と品川区議会議員で意見交換を行いました。

【開催概要】

日 時 : 令和元年11月21日(木) 16:00~17:30

会 場 : 品川女子学院

参加者 : 品川女子学院生徒(中学1年生)、教諭

出席議員(議会報告会等準備会議^{*1}所属品川区議会議員)

: こんの 孝子、石田 秀男、石田 ちひろ、鈴木 博、横山 由香理、
高橋 伸明、松澤 和昌、小芝 新、西村 直子、湯澤 一貴、
新妻 さえ子、安藤 たい作、西本 たか子、高橋 しんじ議員^{*2}

テ ー マ : 「地域課題解決に向けて」

※1 平成29年5月より品川区議会では、「議会報告会等準備会議」など4会議を立ち上げ、議会改革の取組みを継続しています。

※2 高橋しんじ議員は議会報告会等準備会議のメンバーではありませんが、有志で参加しました。

【主なプログラム】

1. 開会あいさつ (議会報告会等準備会議リーダー こんの 孝子)

2. 課題報告 (品川女子学院生徒)

3. 質疑応答

4. 意見交換

5つのグループに分かれ、生徒・議員間で意見交換を行いました。

5. 意見発表

各グループを代表して、生徒1名より意見発表を行いました。

6. 閉 会 (議会報告会等準備会議サブリーダー 石田 秀男)

【意見交換の内容および担当議員】

A組) Youは何しに回覧版! 「担当議員: 松澤議員、新妻議員、西村議員」

B組) みんなの知らない選挙の世界 「担当議員: 高橋(伸)議員、安藤議員」

C組) 五輪まる見え! 「担当議員: 石田(秀)サブリーダー、鈴木(博)議員、小芝議員」

D組) 落書きなくして街汚さず。 「担当議員: 横山議員、西本議員、高橋(し)議員」

G組) スマホはディナーのあとで~G組の歩きスマホの謎はいかが~

「担当議員: 石田(ち)サブリーダー、湯澤議員」

【課題報告の概要と質疑応答】

A組) Youは何しに回覧版!

◆課題報告の概要

中学1年生の道徳のテーマは、「地域を知る」です。私たちは地域を知るため、各班に分かれ、自分たちで地域としての問題を考えました。クラス内で投票を行った結果、インターネットの活用というテーマに決まりました。しかし、インターネットの活用では、「地域を知る」という学年テーマから少し



離れているのではないかと、内容が広過ぎるのではないかなどの意見が出ました。その意見を踏まえ、もう一度話し合った結果、地域の交流を増やすために、電子回覧板という具体的なテーマに変えました。

電子回覧板でやることをわかりやすく共有できるように、やることリストを作成しました。それにのっとり、夏休みなどの時間を利用して、ご近所SNSをつくった「マチマチ」様などの3社にインタビューしました。また、インタビューだけではなく、個人個人で回覧板について調べたり、電子回覧板と比べるために、紙の回覧板についても調べました。

文化祭では、今までの活動を踏まえて、私たちは紙の回覧板との比較を書いた模造紙や、まとめのスライド、自分たちでつくった紙の回覧板などの展示を行いました。結果として私たちは、賞などをもらうことはできませんでしたが、今回の文化祭で多くのことを学ぶことができました。

まず、電子回覧板には多額のお金がかかってしまうこと、まだまだ改善が必要であることがわかったので、長期的に計画を立て、誰にでもわかりやすい、安いお金でつくれるものをつくりたいと考えました。そして、電子回覧板だけではなく、もっと地域のつながりを増やせるものを私たちがつくっていけるようになりたいと思いました。

◆質疑応答

「湯澤議員」

- 実際にご自身のところに回覧板が来るとしたら、電子回覧板か、それとも紙の回覧板か、どちらがいいですか。

「品川女子学院生徒」

- 私たちはスマートフォンなどを持って育っていて、紙のものをわざわざ見ようという意識が減ってきてしまっているので、スマホなどでも回覧板が見られるようになったら、電子回覧板のほうが便利かなと思います。
- 私は、電子回覧板と紙の回覧板を比較して、2つのいいところ、悪いところを自分たちなりにまとめてみたら、電子回覧板も使ってみたいとは思ったのですが、どちらも使ってみたいなと思いました。

B組) みんなの知らない選挙の世界



◆課題報告の概要

選挙の中でも特に、若者の投票率の低さに着目しました。

若者の投票率について調べようと思ったきっかけは、そもそも私たちが選挙に興味がなかったからです。このテーマは、私たちには関係ないという意見が多数で、候補から外れそうになったのですが、話し合う中で、「関係ない」「まだ早い」という意識が

問題なのではないかと考えました。そこで私たち1年B組は、若者の投票率の向上には、まず若者に政治・選挙に興味を持ってもらうことから始めようという話になり、私たち自身が選挙・政治について知ること、また品川区の選挙を盛り上げることを目標にして、活動を進めました。

まずは若者向けの選挙に関する取り組みには何があるのかということ調べて、私たちに6つの班に分けました。選挙公報、SNS、サイト、アプリ、企業、動画ポスターの6つです。ここから班ごとに、取材・調査を行いました。企業へのインタビュー、品川区議会議員の石田秀男さんと芹澤裕次郎さんへのインタビュー、政治・選挙で政治家の方々と実際に会話がアプリ内で行けるというアプリを開発した伊藤さんへのインタビュー、校内アンケートなどを実施しました。

この調査内容から、私たちは若者の興味をそそるような解決策を立てました。選挙公報班は選挙週間の周知、動画ポスター班はオリジナル動画の作成、サイト班は「選挙割[※]」の普及活動、アプリ班は「P o l i P o l i」というアプリと一緒に共同イベントを開催、企業班は「選挙割」の体験、SNS班はオリジナルティッシュの配布です。

(※投票率の向上をめざした取り組みであり、選挙の際に投票所で受け取ることでできる投票済証明書等を対象の店舗で提示することで、割引や特典などのサービスを受けられるというもの。)

これらの6つの解決策で、どれが一番、若者の投票率向上に効くかということ、当日の来場者の方々に模擬投票で決めてもらうという形をとりました。品川区の選挙管理委員会の方々に協力をいただいて、当日使った模擬投票の記載台や投票箱を全て本物で設置できたことで、より実際の投票に近い形で行うことができました。

模擬投票の結果ですが、文化祭当日2日間合わせて、約800票集まりました。企業班の「選挙割」体験と、サイト班の「選挙割」の普及活動に票が集まりました。この2つの共通点は「選挙割」です。「選挙割」は、若者には新しくお得感があるため、好評だったのではないかと考えています。

2つ目は、中高生の投票体験です。18歳未満の中高生は実際に投票する機会がありませんので、今回の私たちの展示を通して投票の体験ができたことで、何か個人で感じていただけたらうれしいです。

3つ目は、取り組みの普及です。来場者の方々、調べている私たちや、インタビューや取材の協力者の方々にも、自分たちの活動などを、私たちもほかの方々もお互いに情報交換することができたのではないかと考えています。

まとめとして、政治・選挙に興味がないという地点から始まった私たちの活動は、調べて

いくうちに問題点をはっきりとクラス内で共有することができました。その上で、18歳未満である私たちから声を上げたり訴えかけたりすることが大切だとわかり、文化祭が終わった今でも、中学生だからできること、知るべきことを、普及、意識の共有の一環として広げていこうと考えています。

◆質疑応答

「西本議員」

・選挙という義務であって、選挙割ということは、いわゆるニンジンをぶら下げてというようなことがあるかと思います。当然、そういう方法で啓発をするというのも一つの手段かと思うのですが、やはり自発的に選挙に行っていたらいいなという思いはあるわけですが、その辺の議論というのは何かありましたか。

「品川女子学院生徒」

・話し合っていく上で、私たちも政治とか選挙にかかわる機会がとても少ないので、実際に議員一人ひとりの方がどんな活動をしているのかというのは理解しづらいというか、ちょっと難しい、かた苦しいというイメージが結構定着してしまっていて、それを砕く一歩として、選挙割がどうなのかという話はクラスで出ました。そこで、選挙割を全国規模に広げていらっしゃる方にもインタビューをしたのですが、18歳になったから自発的になるかといったら、やはりそういう人は少ないと思います。

だから、18歳になる前から、自発的に行ける癖ではないけれども、一つの方法として選挙割や、ほかのSNSとか、最近注目されがちなものから始めないとだめなのではないかという話を中心として活動しました。

◎組) 五輪まる見え!

◆課題報告の概要

私たちは、来年開催される東京オリンピック開催によって起こる問題と、その解決法について考えました。

このテーマに決まるまでの過程をお話させていただきます。まず初めに、私たち1年生の道徳のテーマは「地域を知る」ですが、その地域を東京としました。なぜなら、東京にしたほうが来られる方の共感が得やすいと思ったからです。そこからクラスを9つのグループに分け、グループごとにフローチャート形式で、私たちが扱える東京の問題点を書き出してみました。

その書き出した案の中から、さらに話し合い、オリンピックに決まりました。オリンピックに決まった理由の1つ目は、来年行われ、日本全国民にかかわるため、共感しやすいこと。2つ目は、世界中の方々が集まる一大イベントで、楽しそうですが、いろいろな方が集まる分、問題が山積みであると考えました。

次に、調査についてです。私たちはオリンピックの中でも、問題点を5つ挙げ、チーム分けをして、それぞれを調査しました。1つ目は、ポイ捨て問題について。2つ目は、文化の違いによって起こること。3つ目は、交通機関の問題。4つ目は、テロ発生の危険性。5つ目は、オリンピックの持続可能性です。一つずつ説明させていただきます。



まず、ポイ捨て問題についてです。この班では、品川駅周辺でガーベッジサック（ごみ袋）についてアンケートをとり、その結果からオリジナルガーベッジサックを考え出しました。それを作成して、会場でも展示しました。また、学校前の歩道で落ちているごみを実際に調査しました。

次に、文化の違いによって起こる問題です。この班では、まず日本と外国での文化の違いについて調べました。調べていくうちに、外国の方とコミュニケーションをとれることが大切ではないかと思いました。そこで、オリジナルアプリを考えました。このアプリは、翻訳機能、日本の文化についての説明、正確な発音、いろいろな国の言葉などがわかる点が良いと思いました。

次に、交通機関の班です。この班は、明確に問題点と解決策を挙げていました。また、オリンピック開催時の電車の混み具合を調べ、ランキング形式にもしました。

次に、テロ発生の危険性です。この班は、東京海上日動リスクコンサルティング株式会社へ取材に行き、テロについていろいろ教えていただきました。そこから、私たちができることは、たくさんの方にテロの危険性を知ってもらうことだと考え、ウェブサイトをつくりました。このサイトは、テロが起こると本当に大変だということや、実際に起こったテロなどを紹介しています。

最後に、持続可能性についてです。この班は、オリンピックにふさわしいまちの持続性について調べたいと思い、公益財団法人東京都環境公社が運営する「東京スイソミル」へ取材に行きました。そこで水素会社のメリット、デメリットや、オリンピックでの水素エネルギーの活用法、オリンピック後も持続可能であるかなど、いろいろなことを教えていただきました。そこで私たちができることを考えました。

次に、展示内容についてです。全てスライド形式で展示しました。まず、オリンピックについて少しお話した後、文化の違い、ポイ捨て問題、交通機関の問題、テロ発生の危険性、持続可能性の順番で展示しました。

詳しく説明すると、文化の違いについては、私たちが考えた理想のアプリの魅力を、たくさん伝えることができました。

ポイ捨て問題では、自分たちが作成したガーベッジサックを展示しました。

交通機関班では、オリンピックを開催した際、電車の混雑時の1人の許容スペースを形にした模型を作成して展示し、来場者の方々に体験してもらえるようにしました。

テロ発生の危険性では、制作したウェブサイトのQRコードをコピーして展示し、来場者の方々にそこで読み取っていただき、実際にサイトを見ていただきました。

持続可能性については、オリンピックの持続可能性についてのパンフレットを作成して展示し、来場者の方々に見ていただきました。

また教室の中心には、私たちが考える総合的な理想の東京をマップにして展示しました。そして、クイズを出して、来てくださった方に、スライドを読みながら解いていただきました。

ここで私たちが一番重要だと思ったことは、ごみ対策です。ポイ捨ては、学校前に歩道がありますが、この歩道にもラーメンのごみ、たばこの吸い殻、プラスチックごみ、お菓子の包装用紙など、たくさんのごみが落ちていました。ここの学校の前だけでなく、品川周辺の駅の周りや東京だけでなく、日本全国で起こっている問題です。地域だけにとどまらず、ポ

イ捨て問題はかなり重要な問題だと思います。

来年たくさんの方が外国から来ていただくと、日本はポイ捨てごみがたくさん落ちている汚い国だと思われるのではないかと考えました。日本全国民、汚いまちと、汚い国と考えられることは、嫌なことだと思うので、それを解決したいと思います。

先ほどお話ししたガーベッジサックの案や、それを派生させた商品化、あとは、みんなでポイ捨てについて考える習慣を小学校などで取り入れてみたり、みんなでポイ捨てごみを回収する習慣をつかって、地域の方だけでなくいろいろな方に、ポイ捨てのごみをたくさん回収していただく場をもう少し増やしたいなと思います。

◆質疑応答

「新妻議員」

- この学校の近くでもあるかもしれませんが、皆さんが地域の中で、ごみ拾いのボランティアなど、何かそういうことへの取り組みをしたことはありますか。

「品川女子学院生徒」

- この学校では、学年で月に1度ぐらい、学校の前の歩道を掃除させていただき取り組みを行っています。また、私は横浜に住んでいるのですが、私の町内会だと、半年に1回、地域の中学生在が集まって、町内会全部を回ってごみ拾いをさせていただいたりしています。
- 私は静岡県に住んでいるのですが、町内会で1カ月に1回とかそのぐらいの頻度で、1つの家につき1人、大体大人で、私の家はお父さんが行ってくれているのですが、何個かのグループに分かれていて、そのグループごとに、近所の用水路の中のごみ掃除などを行っています。

D組) 落書きなくして街汚さず。



◆課題報告の概要

私たちは、落書きをテーマとして、6月下旬から準備を始め、文化祭ではそれに関する展示などをして、学年の最優秀賞をいただきました。

文化祭のテーマを決めるに当たって、クラス全体で話し合いました。初めのころは、落書きというテーマのほかにも、まちの緑が少ないことや、まちにあるピクトグラム（絵の標識）がわかりにくいなどの意見も寄せられました。しかし、品川女子学院の

付近にも幾つか落書きが見られることや、来年にオリンピックがあり、外国から来られる人からの関心が集まっていることから、クラスで落書きというテーマに決まりました。

落書きというテーマが決まった後の活動を大まかにまとめてみました。まず6月下旬に、取材をする場所や人をクラスで話し合い、20個ほどの案をまず出して、その中から7つに絞り、取材をする班をつくりました。そして、7月の中旬には取材先にアポどりをしました。アポどりは学校にある電話やファックスでしたり、団体へのアポどりは、その団体のホームページからお願いしたりしました。そして、7月下旬にかけて取材日を取材先と話し合ったり、8月の活動予定を明確にしていきました。そして、クラスで地域の方と協力し、学校周

辺の落書きを消したり、学校の教室内の落書きを消す活動を行いました。

取材は主に8月上旬から中旬にかけて行いました。取材はクラス35人を8チームに分け、それぞれが1つを担当することになりました。取材先に行って、落書きに関して約1時間、じっくりと取材をさせていただきました。また、8チームのうち1チームは、来年東京オリンピックがあることを焦点に置き、来日した外国人の方の落書きの関心度を知るために、雷門付近で街頭インタビューを行いました。

街頭インタビューでは、観光客の方に英語で声をかけて、落書きについてどう思っているか、まちの落書きは気になるのかなどを聞きました。また、それと同時に、日本人の方にも落書きに関して東京駅付近で聞いてみました。そうすることで、外国人の方の落書きに関する関心度と、日本人の方の関心度との違いを比較できるようにしました。また取材先は、区役所や警察の方はもちろん、落書きを研究している方や、落書きを消す団体を立ち上げた方などにもインタビューを行いました。そして、夏休みには、9月に行う活動などをさらに細かく決めていきました。

9月からは、企画班、動画班、デザイン班、プレゼン班に分かれて、それぞれが活動を始めました。動画班は8月の下旬からになるのですが、取材をもとにした自作の動画をつくり始めました。また、校内でのインタビューを行い、校内で落書きのモニタリングを行い、教室にこっそりと落書きを描いて、その落書きを消すのか消さないのか、それをこっそりiPadで撮ってモニタリングしました。また、職員室前に時々落書きが描かれていることがあるので、その落書きを描いた先輩にもインタビューを行いました。

また、デザイン班は、文化祭に当たってどのようなデザインで教室を飾るのかなどを、9月の初めから考え始めました。プレゼン班は、文化祭当日に行うプレゼン内容を、原稿や立ち位置などを全て考えていました。企画班は、まず取材をもとにして、さまざまな企画の原稿などを書き上げていきました。

そして、取材をする中で、初めは、私たちは消す側として考えていたのですが、描く側から考えてみたらどうなのだろうということを考えるようになり、交流会を開きました。交流会では、落書きを実際に自分たちで描けるスペースを設けたり、近所の保育園や幼稚園の子どもたちに描いてもらった絵を展示したりもしました。交流会は、品川女子学院の近くの商店街の建物をお借りして行いました。落書きをするときに、色の違いでまちの雰囲気とかがどのように変わるのかを検証するために、暖色系の色で描くスペースと、寒色系の色で描くスペースに分けて行いました。

商店街で呼び込みを行って、5組ほどの親子の方々が交流会にいらっしゃいました。スポンジを使って、絵の具でいろいろな絵を描いてもらいました。そして、交流会の後には文化祭に向けて、模造紙の書き方や展示の方法など、また、どうしたら来てくださった来場者の方々が落書きへの関心を得られるのかということも、再度クラスで話し合ったりしました。

さらに、企画班は交流会以外にも、ウェブサイトをつくるということを決めて、来て見てくれる人が、どうしたら見やすいかなどを考えることもしていました。

文化祭当日は、来場者の方々がどれだけ品川女子学院に来るまでに落書きを見つけたかなど、参加型で展示を行ったり、あとは、これまで行ってきた活動に関して、黒板に色鮮やかに、落書きをイメージしてデザインをしてみました。あとは、参加者の方々が描いてくださった絵なども展示をしました。そしてプレゼン班は、落書きの対策について文化祭当日まで

に調べてきたものをまとめて、どうやったら落書きが減るのか、来場者の方に向けてプレゼンしました。

このような文化祭までの活動を通して、私たちはクラスでの話し合いの仕方や、取材に向けてなど、さまざまなことを知りました。話し合いの仕方ですが、1学期のころは、椅子に座った状態で机を囲んで話し合っていたのですが、その状態ではあまり意見が反映されなく、どうやったらもっとみんなの意見が反映されるのだろう、みんながきちんと意見を言ってくれるのだろうと考えました。さまざまな試行錯誤を重ねた結果、机を全てどかして、みんなが床に座った状態で、大きな円をつくるような形で話し合いをしたら、きちんと自分たちの意見が反映されていくと考えました。

また、これまで私たちは小学生で、自分たちが行く場所などは、学校側が決めていて、自分たちはそれに従っていろいろやるという形だったのですが、この品川女子学院に入って、自分たちで行く場所を決めて、どういう取材をするのかなども全部決めて、取材をするに当たったさまざまな方法を知りました。

◆質疑応答

「松澤議員」

- 落書きとアートという分類があるかと思います。ちょっと前に、バンクシーのネズミか何かの絵が話題になりましたけれども、落書きと捉える観点とアートとの違いなどというのは、お話の中で出ましたか。

「品川女子学院生徒」

- はい。クラスとしては、落書きはいいことではない、いけないものということで調べたのですが、落書きは悪いことばかりではないと言っている人もいました。
- 取材をさせていただいた方が言ってくれたのですが、落書きというのにもいろいろな種類がありまして、まず、建物に落書きをすることを許可をいただいて落書きをするというのは合法的で、大丈夫なものとしてされているのですが、先ほど言われましたネズミを描いたバンクシーは合法的ではないもので、ただ、世間的には有名とされていて、実際にオークションなどにもかけられているのです。しかし、やはり合法的ではないもの、一応犯罪として扱われているという判断であると、取材でお答えいただきました。

落書きを禁止したら、落書きを見てほしくてやっている人とか、アートの感覚で悪いと思っていない人がいるかもしれないから、専用のスペースをつくったりして、落書きしてはいけないところはだめとするけれども、描いていいところを見つけるみたいなのはどうかという提案とかも、プレゼン班で考えました。

G組) スマホはディナーのあとで～G組の歩きスマホの謎はいかが～

◆課題報告の概要

まず、私たちは今回、「地域を知る」の地域というものを、自分たちの身の回りとして定義しました。それは、自分の住んでいるところだけでなく、自分が今いる場所の周りを地域だと考えるというようにして、スタートしました。

私たち1年生は道徳の時間で、デザイン思考とい



うものについて学んでいるのですが、デザイン思考とは、身近な問題、例えば利用者が持っている本当の願望とか不満とか、そういったインサイト（洞察）というものから、解決への仮説を立てて、現状を把握して、検証して、また仮説を立てて、検証するというのを、ずっと繰り返していく過程のことです。

そこで、私たちは8つの班に分かれて、それぞれ自分たちが思っている問題というものについて調べ上げて、プレゼンをしました。プレゼンの結果、最も共感が高かったのが、歩きスマホという問題でした。

共感度が高かった歩きスマホに決定した後、先ほどの各班に分かれて、歩きスマホの中でも、どんなことが問題なのかということについてさらに深く掘り下げ、各班で解決策を考えました。

この班は、歩きスマホをすると視界が20分の1になるということに着目して、ゴーグルに黒い紙を張って、そこに爪ようじで穴をあけて、20分の1の視界を再現しようと思いました。

この班は、歩きスマホをすると下を向いてしまって、どうしても前が見られなくて事故につながってしまうということに着目して、では上を見上げればいいのではないかとということで、上にきれいなものがあったら見上げるのではないかなということで、デパートの天井にきれいな画像を張る。この画像は、ほかの企業でも、実は天窓照明といって、空のきれいな照明が見える窓のようなものができているので、そういうものとコラボさせられないかという話も挙がりました。

この班は、実際にLINEスタンプをつくっていらっしゃる、ねも太郎さんという方にインタビューを行って、自分たちで歩きスマホ防止を訴えるスタンプをつくりました。実際に販売もしています。

この班は、歩きスマホ防止を呼びかけるに当たって、トラックに広告を張って、それを走らせるというアドトラックという手法に着目して、アドトラックの会社である株式会社リップリンクさんにお話を伺いました。

このアイデアのほかにも、写真が用意できなかったのですが、歩きスマホをすると感知してアラームが鳴るといったスマホや、歩きスマホをしていない時間によってポイントがつき、そのポイントが例えばコンビニのローソンで「からあげクン」と交換できるというプランを考えた班などもありました。

そして、各班の代表がソフトバンクさんの本社で実際にプレゼンに行き、フィードバックをいただきました。かなり細かく、いろいろと書いていただきました。

それから、文化祭当日に何をするかということを考えました。自分たちが何を考えて、どうして歩きスマホになって、結果的にこんな解決策になったということ、黒板に細かく展示しました。その後、班ごとに自分たちの考えたプランというのを模造紙にまとめて、掲示しました。

また、この歩きスマホは、「スマホはディナーの後で」というテーマでやらせていただいたのですが、歩きスマホというものに、もっと親近感を持って接してもらうために、ストーリーを考えました。簡単に説明すると、歩きスマホをしていた女の子たちがぶつかって、入れかわってしまった。それを解くために、皆さんに歩きスマホの謎を解いて協力していただきたいというストーリー性を持たせました。また、最後に投票用紙がついていて、そ

れを投票することによって、自分たちも歩きスマホの解決に貢献しているのだという気持ちを持てる参加型という形をとりました。その結果、私たちのクラスは優秀賞をいただくことができました。

このことから学んだことは、今回私たちは自分たちの周りというテーマでやったのですが、それが実際にどこかの場所にかかわらなければいけなかったり、アプリをつくるには企業のお手伝いが必要だったり、あと、自分たちでは資金を出すことができないなどということが挙げられたので、それを、実際にこのような品川区議会の方とか、大きな企業のほうに行って、また話し合いをしたりということから、いろいろ大人の方を巻き込んで、自分たちで歩きスマホという社会問題に取り組んでいくことが大切なのではないかなと考えました。

◆質疑応答

「安藤議員」

・最初はいろいろなテーマがあった中で、歩きスマホをテーマにした理由は、自分たちでこれは危ないと感じたという意見があったからなのではないでしょうか。また、クラスの中で実際に今、自分のスマホを持っている方は、大体どれぐらいいらっしゃるのかを教えてください。

「品川女子学院生徒」

・歩きスマホに決まった理由としては、私たちが実際に歩きスマホをしてしまう世代なので、歩きスマホをしているもうちょっと上の世代の人とか同学年の人に呼びかけたら、意外と説得力があるのではないかとということから、テーマが決まりました。

スマホの所有率ですけれども、私のクラスでは、ほぼ全員がスマホを利用して、「歩きスマホをしてしまう」とクラスの中で答えた人は、ほぼ全員が、「歩きスマホを一度でもしたことがある」と答えていました。

【意見交換後の各感想「品川女子学院生徒および区議会議員」】

A組) Youは何しに回覧版!

「品川女子学院生徒」

電子回覧板について意見をいただいたのですが、PIAZZAという私たちが取材に行けなかった会社がやっているということを教えていただいたり、紙の回覧板もコミュニティーとか安否確認につながるという意見をいただいたり、あと、電子回覧板という考えではなくて、紙の回覧板があまりうまくいかないなら、見たい人が見るようにするために、1か月に2回くらい集まって配るみたいな、電子回覧板とは別の視点も出ました。

「西村議員」

電子回覧板は、マチマチ（ご近所SNS）やそれに代わるサービスを使えば、現実的に実現可能で、かつ、重要な取り組みであると思いました。



B組) みんなの知らない選挙の世界



「品川女子学院生徒」

選挙の自発性について主に話をしたのですが、自分から行くというのは、やはり難しいという話や、選挙割のメリット、デメリットの話、また、パタゴニアという企業の取材のお話や、立ち上げた選挙割を全国展開してくださった方のインタビューの内容をお話して、議員さんからの意見なども伺いました。

「安藤議員」

18歳選挙権、主権者教育、政治参加については、さらに研究・提案が必要だと思いました。

C組) 五輪まる見え!

「品川女子学院生徒」

主にポイ捨てのすることについて話しました。ごみ拾い、水素のことや、テロ問題のところについて話しました。ポイ捨て問題のことでは、区内の小中校生だとよく出る問題なのですけれども、ごみ拾いという案はあまり出なかったので、やるとしたら参加してくださいと言われました。



D組) 落書きなくして街汚さず。



「品川女子学院生徒」

先ほど前で説明させていただいたときに、いろいろ飛んでしまったところとか、うまく発表できなかったところ、また、いろいろと意見も言わせていただきました。あとは、落書き体験を自分たちで実践したときに、どのように感じたのかという質問をしていただいて、例えば落書きをしたときの自分が思ったこととか、自分たちの心境とか、そういうことをいろいろ話させていただきました。

G組) スマホはディナーのあとで～G組の歩きスマホの謎はいかが～

「品川女子学院生徒」

私たちは8つの班に分かれたのですが、さっき紹介し切れなかった分の紹介だとか、あとは実際に歩きスマホの注意を行っているようなお話とかについて話しました。

「石田(ち)サブリーダー」

生徒さん達の調査で、歩きスマホをしている人は、「急



なメールを見ている、地図を見ている、乗換案内を見ているなど、忙しい日本の特徴か」との結果に、なるほどと思い、こちらが勉強になりました。

【今後に向けて】

当日は、参加した品川女子学院の生徒11名からタブレット端末を用いたプレゼンテーション形式で課題の報告を受け、地域課題に対してとても活発な意見交換を行うことができました。今回、意見交換を行った各課題について、さらに調査・研究が進められ、生徒の皆さんが地域ひいては社会に貢献できる人材として大きく成長されることを楽しみにしています。

品川区議会は、今回の意見交換会でいただいた、若い世代の方の貴重なご意見を真摯に受けとめ、こうした取組みを継続的に行い、引き続き区民に「開かれた議会」、「身近な議会」を目指し活動してまいります。